

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏 名	S.F.	学部・学科	国際教養学部
学 年	3	派遣国	イタリア
派遣大学	ベネチア大学		
期 間	2023 年 9 月 5 日～ 2024 年 6 月 27 日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / アパート / その他 ()					
部屋	個室 / 2 人部屋 / 3 人部屋 / その他 ()					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	◎	シャワー	◎	洗面所	○
	キッチン	◎	冷暖房	◎	冷蔵庫	◎
滞在費	約 (75,000) 円 *1 ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	(徒歩) で、約 (35) 分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先 2 の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1 ヶ月の生活費

項 目	金 額	内 訳
食費	30,000 円	水、パスタ、パスタソース、肉、野菜 等
学用品購入費	0 円	
交通費	4,200 円	定期券代
交際費	6,000 円	食事代
その他	40,000 円	旅行費

合計

80,200 円

*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

私の寮と大学の置かれているベネチア本島は観光地ということもあって夜でも一人で出歩くことができるくらい治安が良いです。しかし、本島を出てすぐにあるメストレ地区では打って変わって夜間出歩く際は周りへの警戒が常に必要です。ある日本人留学生が深夜に一人で出歩いていて暴行を受けたという話を 2 回聞いたことがあるほど治安が悪いです。

3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学 / その他（ ）		
加入期間	(10) ヶ月間	保険料	(103,930) 円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称			
加入期間	() ヶ月間	保険料	() 円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市／町（ ベネチア ）
海の都ベネチア。観光地としても歴史的舞台としてもたびたび登場し、その名前を誰しも一度は聞いたことがあるでしょう。その名の通り、海に浮かんでおり、島の中では車や自転車はなく、交通手段は船と徒歩のみという特殊な仕組みをしています。そのため、町中には運河が通り、船が市民の足として使われています。ベネチアに住んでいる人の数は約1万～2万人で、すれ違う人の90%は観光客と言われるほど観光客が多いです。そのため、場所によっては歩くのが困難なほど人が密集しており、オーバーツーリズムが近年問題となっています。 ベネチアの気候は春と夏は比較的天候が良く、温暖です。しかし、冬は雨が多く、寒いです。10月に入るとアクア・アルタと呼ばれる水位が上昇し、浸水を引き起こす現象が発生します。 ベネチアには本島だけでなく、他にも小さな島が点在しています。人気が高いところでは、ムラーノガラスで有名なムラーノ島、カラフルな家が建ち並ぶブラーノ島、9月に毎年国際映画祭が開催されるリド島があります。ベネチアに来たのなら、これらの島々を訪れてみるのも良いかもしれません。

【学業編】

1. 大学情報

大学	ベネチア大学	所在地	ベネチア
最寄空港	ベネチア・マルコ ポーロ空港	空港からの距離	約 10 k m
空港⇄大学	(バス) *移動手段		
学生数	約 23,000 人	留学生数	500 人以上
学部	Department of Economics Department of Philosophy and Cultural Heritage Department of Management Department of Environmental Sciences, Informatics and Statistics Department of Molecular Sciences and Nanosystems Department of Linguistics and Comparative Cultural Studies Department of Asian and North African Studies Department of Humanities *留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	*留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

2. 週間スケジュール

① (9)月～(12)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	International law	International law	International law	日本語自由会話	Introduction to business administration
午後	Introduction to business administration	Europe as an international actor 日本語自由会話	Europe as an international actor	Introduction to business administration Europe as an international actor	

② (2)月～(5)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	International law	International law			
午後	European private law European public law	European private law European public law	European public law International law	日本語自由会話	日本語自由会話

3. 履修内容

科目	International Law		
履修期間	2nd term（前期後半）	単位数	6ECTS
授業内容／形態	国際法の基礎的な理解を深めていく授業。現在世界で起きている事件（主にウクライナ侵攻、イスラエル・パレスチナ問題）と国際法を絡めながら中立的な視点で考えていく授業。 授業形態は教授がスライドを使って進める聴講形式の授業。		
成績	19/30		
YCU 振替予定	科目	国際法Ⅰ、国際法Ⅱ	
	単位数	2 単位ずつ	
	担当教員	国際法Ⅰ 高橋力也先生、国際法Ⅱ 佐々木亮先生	

科目	International Law		
履修期間	4th term（後期後半）	単位数	6ECTS
授業内容／形態	国際公法の基礎的な理解を深める授業。 授業形態は聴講形式＋ディスカッション。		
成績	20/30		
YCU 振替予定	科目	国際法Ⅰ、国際法Ⅱ	
	単位数	2 単位ずつ	
	担当教員	国際法Ⅰ 高橋力也先生、国際法Ⅱ 佐々木亮先生	

科目	Europe as an International Actor		
履修期間	2nd term（前期後半）	単位数	6ECTS
授業内容／形態	EU がどのように外の世界と関わっているのか探求する授業。主に EU の外交・安全保障が話題の中心となっているが、授業では EU の政治的行為全般についても取り扱っている。授業形態は教授がスライドを使って進める授業であるが、学生の積極的な参加も要求される学生参加型の授業。		
成績	18/30		
YCU 振替予定	科目	ヨーロッパ統合論	
	単位数	2 単位	
	担当教員	和仁道郎先生	

科目	Food & Beverage Management		
履修期間	3rd term (後期前半)	単位数	6ECTS
授業内容／形態	飲食およびケータリングの構造の管理および管理分野における経済・ビジネスの知識とスキルの一部について学ぶ授業。 授業形態は教授がスライドを使って進める一斉授業だが生徒の積極的な参加も要求される		
成績	27/30		
YCU 振替予定	科目	海外留学科目群	
	単位数	2 単位	
	担当教員		

科目	European Private Law		
履修期間	2nd semester (後期)	単位数	12ECTS
授業内容／形態	個人間の関係の問題を収めるヨーロッパ法の重要性を理解すること。また、EU 成立に至った経緯を理解することと EU 加盟国の民間間の関係に適用される法がどれほどあり、どんな内容なのか EU 私法を中心に深める授業。 授業形態は教授がスライドを使って進める一斉授業		
成績	20/30		
YCU 振替予定	科目	海外留学科目群	
	単位数	2 単位	
	担当教員		

科目	European Public Law		
履修期間	4th term	単位数	6ECTS
授業内容／形態	現存する国家・政府の様々な形態の比較を通して公法の基礎的な理解を深める授業。また、EU の法的基盤や内的機関、能力、機能についても取り上げられる。 授業形態はスライドを用いて進められる聴講形式の授業。		
成績	18/30		
YCU 振替予定	科目	海外留学科目群	
	単位数	2 単位	
	担当教員		

科目	Introduction to Business Administration		
履修期間	2nd term	単位数	6ECTS
授業内容／形態	現代のマネジメントの原則と実践について徹底的かつ体系的に紹介する授業。経営者が組織内の活動をどのように計画、組織、管理するのかについて様々な側面から分析していく授業。 授業形態は教授がスライドを使って進める聴講形式の授業。		
成績	30/30		
YCU 振替予定	科目	海外留学科目群	
	単位数	2 単位	
	担当教員		

科目	Introduction to Tourism Economics and Sustainability		
履修期間	1st term	単位数	6ECTS
授業内容／形態	観光市場における主要な主体間の相互作用の分析を通じて、観光システムとその発展に関する主要な経済事実と力学についての知識と理解を深める経済およびビジネス分野の授業。 授業形態は教授がホワイトボードとスライドを使って授業を進める聴講形式の授業。		
成績	25/30		
YCU 振替予定	科目	海外留学科目群	
	単位数	2 単位	
	担当教員		

<総括>

(1) 全体的な感想

*留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800 字以上)

この 10 カ月の留学中に大変なことも楽しいことも同じくらい経験しました。大変なこととしては 9 月にベネチアに着いた当初の全く新しい環境に適応していくことの難しさや友達も家族もない状態でスタートした時の寂しさなどを感じたことです。楽しいことに関しては友達とごはんを食べたり、遊びに行ったりするなど人との関わりを通して楽しさを覚えました。

こうした経験を通して身に染みたことは自ら行動を起こすことの大切さです。よく言われるような当たり前のことですが、私は留学当初人間関係が全くない状態で「待ち」の姿勢で過ごしていたことで痛い目に遭いました。当時の私は海外での生活で緊張していた部分もあったとは思いますが、どこか留学を甘く見ていた部分があったのかもしれませんが。その後内省して行動を起こしたことで周りの環境が良い方向に変わるのを実感できたため主体的に動くことの大切さを実感できました。つまり、なにもしなければ、なににも状況は変わらないが、恥を忍んででも行動を起こせば、なにかしら変化が生まれるということです。それからはこの出来事を教訓として「思い立ったが吉日」ということわざが私の座右の銘となりました。

そして、イタリアでの生活や様々な国へ訪れたことで日本の魅力について再認識することができました。日本に住んでいる間は当たり前だと思えることが海外に行くと当たり前ではないということはよく聞く話ですが、まさに身に染みて実感しました。私が留学中最も日本が恋しいと感じた瞬間は温泉に入れないことと日本食が食べられないことをストレスに感じた時です。もちろん温泉もヨーロッパにあるにはあるし、日本食のレストランもあるのですが、それらは私が期待していたものとは程遠くがっかりした時の気持ちが今でも思い出せます。この経験から私が人生において大切にしているものについて考え直すきっかけとなりました。そして、日本の治安の良さも住んでいると当たり前と感じられるが世界に誇れることだと強く感じました。

このように、私の留学の成果は「当たり前」を見直すようになったことです。「行動しなければなににも状況は変わらないこと」「友達の重要性」「日本の良さ」などの一般的なことがとても重要だと再確認しました。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400 字以上)

留学全体を通して年齢、国籍問わず多くの人とコミュニケーションをとる機会がありました。こうした対話の中で初対面の人とコミュニケーションを取ることにに対する苦手意識がなくなったように感じます。そのため、この経験を活かし、新しい環境に身を置いた際に、誰とでも臆さずコミュニケーションをとれるようにしたいです。

また、留学中には寮でのコミュニティ、学校でのコミュニティ、私の参加したバレーボールチームのコミュニティなどそれぞれ違う人間関係を構築できるよう頑張りました。最初は苦労することが多くありましたが、時間を要することでうまくいきました。こうした粘り強さも今後課題に直面した際に役立てることができないのではないかと感じます。

最後に、留学中に学んだ自主性と責任感も重要な教訓です。新しい環境で自分自身をマネジメントし、自ら目標に向かって主体的に行動する力を養いました。このスキルは、今後のキャリアや生活全般においても大いに役立つと確信しています。

以上のように、留学で得た経験と教訓を活かし、今後も積極的に行動し、多様な価値観を尊重しながら成長していきたいと考えています。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400 字以上)

留学が充実したものとなるかどうかは自分の行動次第です。なにもしなければなにもしないし、なにもしら行動を起こせばそれに伴って状況も変わります。これは私が留学で身をもって実感しました。そんな私が確実に言い切れる留学において最も回避すべきことは受け身の姿勢でいることです。つまり、積極的に行動することが大切だということです。それだけ心掛けておけば、充実した留学生活となるでしょう。

また、人間関係の構築において日本人と多く関わることは全く悪いことではないです。むしろ日本人と同じ境遇の苦労を共有できてストレスを軽くできたり、有用な情報を得ることができたりメリットが多くあります。留学に行くから日本人と関わることを避けて外国人としか関わらないと言うような人もいますが、私はおすすめしません。

私の留学経験を通して、上記の 2 つのことを実践したことが留学生生活を充実したものにできた要因だと考えています。

これから留学に行く皆さんは自分に自信をもって頑張ってください！！

応援しています！！